山口県文書館蔵「近藤芳樹日記」翻刻（十一）

久保田　啓一

凡　例

一　漢字は、常用漢字に含まれるものはそれを用い、他は正字体とした。ただし、「并」のように、組版の都合を考慮して俗字を使用した場合がある。また、明らかな誤字は訂正した。

一　平仮名・片仮名については、書き分けに意味があると考えられるため、底本の表記に従うのを原則とした。平仮名の文脈中にあらわれる「ニ」「ハ」「ミ」もそのままとした。なお、合字の「ヿ」やメなどは、それぞれ「コト」「シテ」などに開いた。

一　適宜句読点・濁点・半濁点・中黒を補った。

一　漢文の訓点は、明らかな誤りを正した以外は底本のままとし、新たに補うことはしなかった。

一　踊り字は、〻を「々」とした他は底本通りとした。

一　校訂者による注記は、〈表紙〉のように〈　〉で示し、底本に使用される（　）とは区別した。

一　欄外や行間の補記、割注の類は、〈欄外〉〔〇〇〇〇〕・〈傍注〉〔〇〇〇〇〕・〈割注〉〔〇〇〇〇〕のように〔　〕で括り、底本に使用される「　」とは区別した。

一　底本の行移りには従わず、内容に応じて適宜改行した。また、改頁を示すことはしなかった。

一　闕字・台頭・平出の類は無視した。

一　日付・天候の記述から本文に移る形式は冊によって異なり、統一がとられていないが、日付・天候を一字下げで書き始め、本文を続ける形式に統一した。

一　通読と検索の便を考え、各冊の最初と最後には〈第〇冊　表紙〉〈以上　第〇冊〉と校訂者注記を掲げ、各月の初めには〈文政九年〉のように該当年を注記した。

一　全冊の本文掲載終了後、索引を付す予定である。

〈承前〉

六月〈嘉永五年〉一日。晴。

払暁出立。日田マデ五里トホシ也。日田ノ内、豆田・玖麻ト二ツニワカル。大原神社道ニアリ。コノ神宮寺ニ山口ノ竹下左馬允ガ弟僧居ルヨシニテ、久要マカリタリ。然ルニソノ僧上京ノ留守ナルユエニ、無拠マヅ豆田ノ俵安トイフ旗亭ニツク。逸雲サイツコロヨリコヽノ大超寺トイフニ居ルヨシナリ。

旅恋

むすびつる草の露ともいひなして心安くや袖をしぼらん

二日。晴。

中島広足ニツカハス書状ヲ認ム。広瀬求馬コノ里ニ住ルヽヲ尋ネントテヨメルウタ、

淡荘先生この里に塾をたてゝ生徒を教育し給へること年重りしかバ、四方の負笈の士のもの学びに来る、はやくよりいとおほかりとぞ。こたびふりはへて訪ひまゐらせてよめる

枝ゆへるをしへかしこミ啼つれて鳩さへやどの蔭たのむらん

〈頭欄〉〔〇〕サテ広瀬翁ヲ訪ヒツルニ、翁イトナツカシキサマシ

テ事カタラハレタリ。カヘリタルニ、逸雲旅宿ニ来タリ。夕方ヨリ逸雲ト共ニ大超寺ニマウヅ。夜フケテカヘル。〈割書〉〔日田ハ一匁トイフガ十九文也〕

三日。ヲリ〳〵雨。

朝ヨリ広瀬氏ニマネカレテ行、昼餉彼方ニテタウブ。コノ里ナル久麻河名物ノ鮎ノヤキモノナリ。ソノ後逸雲ト共ニ久麻ニユク。マヅ京ヤトイフニテ川辺ノ楼ニテ納涼ス。コノ川筑後河ノ水上ニテ、イト大ナル川也。ソノ後鍋ヤトイフニウツル。夕飯ヲタウブ。酒肴出テ夜フクルマデカタラヒカヘリヌ。

広瀬云、文天祥ガ囚トナレル、日本人ニテハ切腹トイフ所ナルヲ、彼縲絏ヲ恥トセズ。コレ異ナル所ナリ。サレバ日本人ノ気象ハ孟施舍ノ如ク、彼方ノ気象ハ北宮黝ノ如シ。

四日。朝クモリテ後ニハレタリ。

日田ノ豆田ノ俵安ヲタツ。逸雲オクリニ来ル。朝スヾシ(ママ)ノホド石坂マデ来ツ。石坂ノ道筋、日田ノ豪富ヨリ石ヲシケリ。垰ノ少シ下ニ広瀬翁ノカケル碑アリ。垰マデ二里也。コレヨリ下リミチニナレリ。守実村マデ垰ヨリ二里也。コヽガ豊前・豊後ノサカヒ也。コヽニテ昼餉ヲクラフ。ソコヨリシバラク来テ鑿道アリ。長七十間、川ゾヒニアリ。所々ニ窓ヲアケテ明リヲトル。コヽヲ出テひとゝ村トイフ。スコシ下リテマタ七八間ノ鑿道アリ。シバラク来テ雲八幡宮ノ社アリ。コヽヲ宮園トイフ。能所ナリ。

宮園ヨリ下、川ノ左右ノ山ノケシキ、南宗ノ山水トイヘドモ更ニ及バズ。二里ホドノ間、言葉ニモ筆ニモツクシガタシ。道ニ若八幡宮アリ。ヨキ社ナリ。川ヲワタリテマタ鑿道アリ。コタビナルハ始ノニクラブルニマコトニイハン方モナク妙ナリ。所々ニ窓アリ。或ハ円窓ノ如キモアリテ、ソノ側六七人坐スベキ岩アリ。或ハ川辺ノ道ニ出テマタ鑿穴ニイル。凡百二十間、奇異イハンカタナシ。樋田ニヤドル。

五日。晴。

払暁羅漢ニ詣ヅ。奇偉イフバカリナシ。歴(ママ)応元年ニ円龕照覚禅師ノ開山也。ソレヨリマタモトノ樋田ニカヘル。コヽヨリ佐知マデ一里半、佐知ヨリ中津ヘ一里半也。中津京町松原ヤトイフハタゴヤニヤドル。サテコナタカナタカケメグレドモ、カルベキ舟ナシ。スベナサニ織之助うのしまニマカリヌ。コヽニモ舟ナクテカヘリヌ。

六日。晴。

払暁宇佐宮ニマウヅ。中津ヨリ四里行テ四日市ト云。東本願寺ノ坊アリ。大地ナリ〈傍記〉〔地ハ寺也〕。半道バカリ行テ川間土橋カヽレリ。マタ半道バカリ行テ宇佐也。御手洗川ニクレ橋トテ金カハラノ上ヤネアル橋カヽレリ。長サ十三間ナリ。御社イタク物サビテ大木ナドアリ。カヘサニ岡本ヤトイフニテヒルゲタウベテ、久シクイコヒテ出ヌ。大宮司ヲトヒテ古書ナドヲモミマホシケレドモ、アツサニタヘカネテ空シクカヘリヌ。カヘサニ四日市ニテ西本願寺ノ坊ニモマウデミムト立寄ツレド、コノホド普請中ニテ寺モナケレバ、ソノマヽニスギヌ。夜ニ入テ井筒ヤトイフニカヘリテヤドル。コレハ富田ノ平野ノ舟頭ノ船宿ナレバ也。

七日。晴。

奥平十学ノ許ヘ佐甲ヲツカハシツレド、所労ノヨシニテカヘレリ。未ノ時バカリニ船ニノル。船頭ノ名ヲ好松トイフ。海岸ノ船ヲツナギタル所ヨリ地ノ方ヲ望ムニ、御城ハ海ニツクリカケタリ。サレドモ向ヒノ方洲ニテ芝生ナレバ川ノ如シ。ソコニ中島アリ。人家少々ミユ。小岩井ト云。コヽハ小倉領ナリ。御城ノ咫尺ノ間ニ他領アルユヱ、君公モイタクコウジ玉ヒテ、小倉ニ外方ト地ヲカフベキヨシ申サセ玉ヘドモ、承引ナシト也。スベテ当所ハ商ヒ場所ニテ少シハ賑ヒアル所ナレド、マコトハ日田ヨリ金銀ヲ出シテ商ヒヲサスルヨシナリ。家中ハ一向サモシキ躰ニテ、マヅ徳山位カ、ソレヨリモ下等ナルベシ。府下六万石、ソノ他筑前及芸州ニテ六万石ナレド、カヘリテ御損毛ノ所ナレバ、スベテ府下ノ六万石ダケニテ事スムト也。マコトヤ、キノフ宇佐ニテヨメルウタ、

足ひとつあがりての世ハしらねどもふとしくたてる宮柱哉

ソレヨリ富田船ニウツリヌ。風モカナヒタレバ、周防ノ方ニワタランニイトヨキ天気ナリトテ、丑三ツバカリニ舟出シツルニ、夜アケテ空カキクモリ、コチ風イミジウ烈シクナリテ、イハユル三十六里ノ洋中ニテ、イカニトモスベキヨシナクタヾヨヒタリケルニ、神ノマモリヤツヨカリケン、鵜ノ島ノミナトニ吹カヘシヌ。中津ヨリ一里バカリ西ノ方ニテ小倉領ナリ。

八日。晴。

時ハカリ空ノケシキヲウカヾヒツレド、頓ニナホルベウモミエネバ、コヽニテ船ヨリオリテ佐久間種トイフスキ人ノ閑居ヲ訪ヒテ、小倉ノカタヘトオモムキヌ。八屋ヲスギテ求菩提山ヘノ道アリ。ソノ西ノ方、松江（シヤウ）ノ里也。ソレヨリ椎田ニ来テヤドリヌ。鵜の島ヨリ二里半也。コノワタリミナ海ヅタヒノ道ニテナガメヨシ。タヾ旱天ノユヱニ田地水カレテ白クナレル所々多シ。

九日。晴。椎田ヲ立テクル道々、田ミナ水カレタリ。道イトヨシ。三里来テ大橋ト云里アリ。ヨキ所ナリ。橋ヲワタリテ行司トイフ。コヽモヨシ。サレド端宿ニテ継立ヲセズ。マタ一里半バカリ来テ苅（カシ）田ニテ継グ。イトワロキ所ニテ昼餉タウブル宿モナシ。ソコヨリ半道ホド来テタヌキ山ト云所ニテ昼餉タウブ。午時バカリニ小倉ニ出タルニ、祇園ノ祭ナルヨシニテイトサハガシ。カクテハコヽニ止ランモヲカシカラジ、タヾチニワタラントテ、蔵本某トイフ者ニ仰セテ船ニノリヌ。順風ニテホドモナク下関白石氏ニツキヌ。ヨロコビイフバカリナシ。コヨヒ雨イミジクフル。

十日。晴。

長崎ヨリ来タルラン荷物ノコト、会所ニタヅネニツカハシタルニ、イマダツカズ。コレニヨリテ豊前田アタリノ船宿ニトフニ、四月ヨリ以来船ハイク艘トナクカヘリツレド、サル荷物ヲバモテワタラズトイフ。イトイブカシキニツキ、長崎ヘアテヽ藤田作右エ門ガ許ヘトテ書状ニテタヅネツカハス。

十一日。晴。

新地ノ会所ニマカル。御目付井上締、長府ノ殿ノ逝去ニヨリテ出張セルニアヒヌ。ソノ外物頭両人、八幡方等ヲ訪ヒテ、カヘサニ御貸銀方ヲトブラヒテカヘリツ。夜ニ入テ本関ニマカリテ伊藤源右エ門・石井宗純ヲトブラヒヌ。

十二日。晴。

朝郭公

まちてだにかひなかりしを時鳥ねての朝けの〈傍記〉〔おくるあしたの〕空のひとこゑ

十三日。晴。

伊勢貞丈云、書物ヲ見ルニ古眼ト今眼トヲ心得テ見ルベシ。古眼ヲ以テ今世ヲミレバ、今ノ風儀ガ明ニ知レル。今眼ヨリ古ヲミレバ、古代ヲモ今ノ風儀ノ如ク見ナス故ニ、明ラカナラズ疑ハシキコトバカリ也。タトヘバ古書ニ金百両トアル、煉金トイフモノヲ秤目ニテ百両ノコトナルヲ、今眼ニテミレバ小判百両ノ如クミユル。マタ古書ニ八丈絹トアルハ、尾張ヨリ出タル物ニテ長八丈ノ絹ナルヲ、今眼ヲ以テミレバ八丈島ヨリ出ル絹ト同様ニ思フ。コノ類多キコト也。温故知新トイフコト誠ニムベ也。

アル俳人、文ヲ書テ古学者ニ加筆ヲ乞シニ、段々ト直シテ遣シタルヲミテ、イヅコモコレニテヨクナレリ、但コノゆくりなくト云詞ハ削テモライタイ、コノ詞アリテハドウカ中本カ敵討本ノコヽチストイヘリシトゾ。ゆくりなくハ雅言ナルヲ、近世戯作者マデモサル詞ヲツカフカラ、中本敵討本ナドニ多クミエタルヲ、知ラヌ目ヨリハ雅言トハオモハデ、カヽルモノニツカフ詞ト思ヘリトオモハル。コレニテモ古学者ハ行ワタリミチタルヲ知ベシ。

十四日。晴。

御貸銀方ノ中村庄右エ門〈割書〉〔大検使也〕　（マヽ）　〈割書〉〔役人也〕ノ両人訪ヒ来ル。中村ヨリ煉羊羹一箱ヲオクル。

十五日。晴。暑気甚シ。

晩夏

なゝくさの花のつぼミをながめても秋のたつ日をかぞへられけり

立秋

きほひ入る豊浦のをどの舟なれバ今朝よりまほに秋風のふく

コヨヒ大木又次郎トテ豊前田ニスメル者ノ許ニマネカレテマカル〈割書〉〔細川ノ采地也〕。アルジイトネムゴロナリキ。今日夕方イサヽカ雨フレリ。豊前ノカタハヤヽフリタルヤウス也。

十六日。雨。キノフケフ暑気如蒸。

十七日。今日モイミジキ暑サ也。

林方ヘ朝会席ニテマネカル。客ハオノレト白石ト村田太作ト田村ト也。会席ヲハレル比ヨリ、舟木ニ亭主ノ兄ナル者アナルガ病気ノヨシ告来レルニヨリテマカリヌルヨシニテ、太作亭主ニカハリテ事トル。酒肴ナド出テ、芸妓二人、舞妓一人来レリ。終日ノ飲ニナレリシカバ、オノレハ日ノ入ントスル比ニシノビテカヘリヌ。

十八日。天気也。

白石ニテ大祓ヲ講ズ。

十九日。天気也。今日モ大祓ヲ講ズ。

廿日。暑如蒸。

大木又次郎隆乗入門。今日職原ヲ講ズ。清末ノ下関町方役人三輪官左エ門、マタ南部ノ藤木茂介〈割書〉〔虎ヤ〕来ル。明暁御目付井上締帰萩ニ付、暇乞ニマカル。長府侯ノ卒去ニ依テ出ヰタル也ケリ。

廿一日。雨。

長府ノ大庭泰介資敬ハ白石ガ弟ナリ。コノ四五日ガホド長府ヨリカヘリテ、彼方ヨリ迎ヒノ人々モアマタ来タリケレドカヘラザリケルニ、何クレト取アツカフ人ドモアリテ今日カヘリユクニ、ハナムケノ歌ヲトテコヒケレバ、

風にふし雨にしをるゝ稲ミればうきをふるこそたのミ也けれ

廿三日。晴。

小田百谷ガカケル養老滝ノ賛ノウタ、

天なる　高田のいねを　にへ神の　ミきにかもして　浅甕に　ミてるあまりや　ミぬのくに　多度の山なる　落たぎつ　たるミの水に　こぼれそひ　流れ来ぬらし　柴人の　いこふたよりに　一結び　むすびてしかバ　顔のいろの　丹のほにゑひて　水ながらうま酒なせり　そのよしの　ミやこに聞え　あら玉の　年の名にさへ　おひにける　ふる事もへバ　あやしきろかも

廿四日。晴。

大木又次郎ヨリ重箱一組ヲオクル。

廿五日。晴。

タカケテ田村金右エ門ヨリ招カレテ青楼ニマカル。

廿六日。晴。

藤城茂介ガ許ヨリ重箱ヲオクル。大祓ノ講ヲハル。

廿七日。晴。

長崎在役藤田作右エ門ヨリ書状来ル。サイツコロ荷物ノツカヌコトヲ云ツカハシツル返書也。近キホドニ荷モツクベクテ、イツシカトマツ也。

廿八日。晴。

午後橋本（マヽ）　方ヘ招カル。林モ来リテ夜ニ入テ後カヘリツ。

廿九日。晴。

赤間関の事どもをよめる

一よづまとなれる舟のきぬ〴〵に鐘よりうきハおひてなりけり

きけバなほ袖ぬれにけりあしがにの横なまりたるむかしがたりも

七月〈嘉永五年〉

一日。晴。

田村金右エ門、一昨日ヨリ本関ノカタニテ所労ノ由ニ付、今朝見舞トシテマカル。カヘサハ竹内九郎右エ門同伴ニテ亀ヤニ立ヨル。石井宗淳モ来リテ酒宴ニナル。申ノ時バカリニ帰ラントテ立出タルニ、道ニテ北国ヤト云問屋ニアヒテ、田村ガ病マタ重リタルヨシヲ聞テ、竹内ハソレヨリ引カヘシツ。オノレ一人白石ニカヘレリ。

二日。大風雨。ハジメハ風コチナリシガ、ハエニマハリテイミジク吹ヌ。

本関ノカタヨリ舟ドモアマタ新地ヘマハシ来タルガ当リ合テ、小船十艘バカリモ打砕キヌ。暮近キ頃ニオダヤカニナレリ。京都ノ貫名某トテ省吾ガ次男ナルヨシヲ名ノリテ、歌ヲモヨミ、詩ヤ書画ヲモモテアソブヨシニテ訪来タリ。石井宗淳ガリ添書シテツカハシツ。

三日。晴。

四日。晴。

白石ニテ茶会也。予ト村田太作・林八郎右エ門三人也。竹内九郎右エ門モ来ル筈ナリツレド、田村病気ニテ萩ヨリ医者来タル引受ヲスルヨシニテ得来ラズ。後ニ巨木・橋本ナド来テイタク盛ナル会ニナレリキ。

五日。晴。

白石氏ノ橘園記ヲカク。

和銅のミことのりに、橘ハくだものゝかミにして、枝しもゆきにあへどもしぼまず、葉夏冬をへてしげれり、玉とゝもに光をきそひ、こがねに交りていよゝうるハしとのり給ひ、万葉の長歌に、あし曳の山のこぬれハ、くれなゐに匂ひちれども、たち花のなれるその実ハ、ひた照にいやミがほしくとよめり。これらのふるき跡によりておもふに、いにしへの人の此木をもてあそべる、むねと実をめでゝ、いとしも花をバほりせざりけり。白石氏の家の名を橘園といふ。おのれ、ことしのきさらぎばかりにつくしに下りけるついでに、五日むゆかとゞまりて庭のおもを立ならせるに、梅さくらハ更にもいはず、さらぬ木草も色をこひにほひをふふみて、おもしろく咲ミだれたるさかりなりき。さバかりおほかる花どもにハかこちもよせずて、橘をしも一木とり出られたるハ、いかなるゆゑならんとおもふに、うつせミの人ミなたゞ花にのミゑへる世の中なるを、あるじいたくうれたミて、実をむねとせる木を家の名におふと、いはゆるひとりさめたりとかいふめる心ばへをしめされたるなりとなん。かけまくハかしこけれど、南殿のミはしのもとなる桜橘ハ花と実とをならべ給へるなりけり。おふやけの御事ハげにさこそあらまほしけれど、私ざまの世にすまふ心おきてハ、文をしぞけ質をすゝむるかたならでハたもちがたきわざにしあれバ、この花をおきてこの実バかりをめでらるなる、いとふかくもおもひよられたるかな。しかハあれど、さミだれつれづゝとふりくらしてしめやかなるゆふべに軒ちかくうち匂ひたるハ、むかしをしのぶつまにさへなりて、花もまたすてがたきものをや。

さける花なれるその実のとこよものとこめづらしみ家の名にしつ

六日。午後夕立セリ。

七日。晴。

会所ニマカリテ福原荒助ガモトニテヒルゲタウブ。カヘサニ竹内九郎右エ門ヲ訪フ。羊羹ニテ茶ヲ出ス。七夕ノウタ、

うかれめがつまゝつ舟の梶の葉にかくも仇なる手向なりけり

八日。晴。

今朝長崎ノ荷物着。尤毛氈類ハ未ダ着セズ。アサヨリ本関ノカタヘイトマゴヒニマカリテ、亀ヤニテヒルゲタウブ。藤田・石井ナドツドヘリ。夕ガタカヘル。藤木茂介・巨木又次郎ナドマタツドヘリ。今夜雨イミジウフル。

九日。晴。

イトスヾシ。アス出タヽムトスル。白石氏ノ人々、シヒテ今一日二日トヾメケレバ、

旅ごろも日数ばかりをかさね来てうすさおぼゆる秋のすべなさ

十日。雨。

イミジウフル。一番鶏ニ立テ、四郎原河崎ニ申ノ時分バカリニツキヌ。

十一日。ハレタリ。午後比ヨリ雷鳴シテマタ雨ニナリヌ。

佐甲ヲ荷物ニツケテ萩ニカヘス。オノレハトヾメラレテ一日イコヒ

ヌ。
十二日。雨ヲ犯シテ四郎原ヲ立チ、日グレニ萩ニツキヌ。ヤガテ布施氏トブラヒ来レリ。
十三日。曇。荷物等ヲ佐甲ト共ニ取シタヽメ納ム。御手形ヲ役所ニカヘシ、明倫館ソノ外ヘ事ノ由ツゲツカハス。
家にかへりてよめる
板びさしもりしあれ間をつくろひて今宵ぞ月とすミかはりぬる

土産

一 ビロウド　雨羽織ノエリ　一　筆三本　一　墨一挺　布施へ
一 水天宮ノ守
一 指金十五　一　水天宮ノ守　一　墨一挺　一　丁硯香筆跡　中尾へ
一 音薬
一 机氈一枚　一　カブリ風呂敷二枚　一　墨一丁
一 三字経一冊　一　□□〈字形不明の二字〉雲筆跡一枚　村田太作へ
一 林則徐石摺　一　万古清風一枚　一　指ガネ十　村田へ
一 董其昌石摺一枚　一　暦一本　岡本へ
一 ツケギ一　一　清正公記一　一　筆二　林へ
一 筆二　一　指ガネ十　一　墨一　ミヤギへ
一 墨一　筆二　指金十五　宍戸へ

一 タイマツ一　墨一　筆二　内藤へ
一 紅木綿一反　一　唐暦一　一　指金十　一　ツケギ一　サガミヤへ
一 宝珍膏一
一 カブリ一　筆二　竹内へ
一 宝珍膏一　一　十硯書一　一　赤壁石ズリ一　祖式へ
一 カンザシ一　一　カブリ一　吉岡
一 香　一　扇子一　アタラシヤ
一 墨　一　宝珍膏　一　菓子　一　タイマツ
一 三字経　小林
一 水筆一対　一　吟到梅一対　々
一 セン香　アリ丸
一 筆二本　一　墨一　一　指金十　平田へ
一 カウヤク　一　指金十　〈小書〉〔河添〕井上へ
一 水天宮一枚　寺内へ
一 墨　北条へ
一 カブリ　唐筆　小倉へ

一　筆二　一　墨　　山県

一　池上ラ今筆十本　一　書続十本

一　吟到十本　一　色絵茶碗五　一　青茶十　　岡本

一　小筆〈小書〉〔水筆カ〕　一　吟到　　児玉〈小書〉〔堀内〕

〈以上　第六冊〉